



遠 13
899
24



特
八遠 13
番 1893
卷 2止



言葉乃極乃張費大黒
運川幸の次節の云 難波乃南に河流を
お堀も清あめと無あは揚とけ人の口も見
え海なるがくの海味なるお家まるのりこしを
大いなるお人お美利の物来しとを臨るもわく
目ごとと遠入るもお物とやらんおのつてけら前
せましくありておあるる人をもほお着充るつと大
よりいねをりく提灯けさせくもくもあめ
氣とせめらあ又屋のわあさる所ほよあるる
ものよ海邊もさきく種とく人の仲よ立町もあ
燈臺とけうられくく病のめをな海邊の
道と替へく松屋町あよ大あらりのこり
うけとせく神育のまらめはるるのあ

子の者へゆへこの母の側とてしるるは
ちかぬ人のかちぬるなりけりけり
とてけりけりけりけりけりけり
せ近所の野原のあまのりけりけり
花を若き初ねりけりけりけりけり
隠れけりけりけりけりけりけり
ゆえにゆえにゆえにゆえにゆえに
んんんんんんんんんんんんんんん
舞らぬをけりけりけりけりけり
色にけりけりけりけりけりけり
よけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
提の下よりけりけりけりけりけり

昔はけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
とてけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
七色のけりけりけりけりけりけり
接ぎけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
お蝶とてけりけりけりけりけり
とてけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり



よ喬奥のあひをせして忍びのふ忍ぶ處と侮り
年をくしく世にまよと家めくせしふえより
を佛法に今れ靈地あきし精進明らして終去
し女と刀之と侮てわ小齋のわりりさ人後て
業かうくぬ里幸らんあ中めて月めとあつれを
あつてふ徳ひより金根たたくるくびふれ
柳とくふふい男住あまし一なれ於寺何通り中
と若者の者成くむうよゆり東の門は梅り移り
美し付て寄おく風俗ひく切文も水國のじ
一蝶葉石の月ざとと答列て後めを又通よ月
と形伏見通ひの志げくあやどれひひたたくとあ
げふあ様よ町の十とあひよたろくもあは是とあ
よき野よてせりくめりけ海跡と女さひよきふ

ゆふよぶよゆく清めと念点としてをせりり
男久には尋々ふさ野よ位て荒道の分とこ
うよめんまん志あぐり野良小町後もゆくを
とくくく深くぞ念力富よあうつかから斗
まへるめとあつたを牛馬のくく大長じのひ
のくくくく物心の鬼屋から遠くを屋敷のまら
勤めの名をあれとくくあけぬくあまま
かうくあまをかんめま

くくくけておあひの確

大津奈らにを小指すやう踏もおあひた確と
けくくく小奇の声をいすく着えめくく
鬼鬼れくえはく踏まく細の津たうくをか



形や〜びまゝとほけびくまの〜
 久安てあまの京大坂の親類乃大長死一倍と
 女を〜と女と連判備してそそめて法
 分とき多ふよ何めても凍と〜らひ法
 年取物よ形々あよげよまじと梅りけきえ大
 〴〵とふゆりてだよと石の物式汁七八分よ
 ありぬい建敷こま〜れ〜けいめん〜
 抄のり大長よ〜い〜い〜い〜い〜い〜
 流生れあよあよあよあよあよあよあよあよ
 細は踏く〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
 さいなら〜て〜大長と粉あ〜い〜い〜い〜
 〴〵あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

正と見落ぬまののりれ虎あまのは業どめ。作
 百石備米と足判代美々のにむ記たててが
 らめくやしく六指ぬれま〜〜かめとやむに
 二とびは替ふうら〜〜るたよなる〜〜りるれ
 ああゆのよちあゆ〜〜どだ美角を高の道乃外
 らやがのあふ親仁がる程おしてはく〜〜せぬハ
 多分別是と備〜〜り〜〜わハ
 車軸の難者あ〜〜の保懸
 〜〜世の言とてあ〜〜は地灯のらあ〜〜行しおのふ
 〜〜〜をな〜〜焼〜〜れ燐燭も〜〜も〜〜備乃保
 物と燃々ふ〜〜世の〜〜ぬれ乗乃傘あ〜〜〜と
 かり〜〜ま〜〜ぬ〜〜月〜〜ぬ〜〜ぬ〜〜れお〜〜る〜〜れ〜〜言〜〜く〜〜と
 正〜〜と〜〜り〜〜て〜〜あ〜〜け〜〜ん〜〜の〜〜こ〜〜〜〜〜磨〜〜れ〜〜ハ



供の用をいふそとふたつとく。柿も餅も金銀
 大層のこきよは届けをそとくけく。傘抱打も備
 ころりに着る不持をあし。是下く此業承るよと
 くの氣と付ぬゆそと。自余勤めの子ろが所
 ぬらひ志れといふ言まの下のうらむふたを
 にふりもく。此は法くのわく。此打打は
 ぬ。養生の料と何く。つと
 せぬぬを。此の約。つと
 びう。山崎は。法所れ。治り。客入。下と書
 せしと。近づくに。居て。是と。まな。つと。暇の。様。実。を
 勤め。な。まの。長。持。ひ。こ。り。と。て。ま。な。つ。と。の。母。并
 寺の。湯。坊。と。遊。引。に。ま。な。つ。と。の。酒。は。ま。な。つ。と
 初。乗。り。つ。り。の。ま。な。つ。と。の。酒。は。ま。な。つ。と。



おむむむ
 たく
 おむむむ
 たく

たなや
 せ
 ぬ
 ぬ

玉燗のあらぬさぬのこまわとつて既久流ら
 々いふあの男どもも乃宿よをあらぬあれ
 徳商人あり公あれどくせあららるる世
 帯持の子どもあらず自由者所おれとあとい
 かねてお酒をふかき産をさかの仲相とさる
 と付まお産いころれあ尻とさぬを拵十と
 きる式下を産うい小鴨おとせぬ中あま
 とやうつと事付け通ひささかうだらふ野
 らる宿よは湯はひのいりつて吹びなませあ
 の海をぬぐえらうのれ書掛細湯のいりのお
 中しあおひいり入一。是宿産とつて一
 の集れあまのあちり。目流すの介へあま
 ぬ。子又長振抱い着ぬとあまらるる世



一王と百孫ありしを。孫麻子の如き事あり。孫
孫ありしをいぬるのあはれを勅めぬは。孫
全救を人の徳ふありぬ。一は。孫麻子。孫
借り救あり。孫のふ。孫麻子。孫
めあり。一。明業のふ。孫麻子。孫
は。りて。世の事。理とあり。一。孫麻子。孫
い。あ。を。ま。ら。の。事。掛。よ。ひ。つ。ま。を。ま。け。じ。と。し。て
ふ。さい。い。そ。く。ふ。命。と。し。て。そ。を。ま。け。じ。と。し。て。い。ふ。
淵を袖あり。あ。ま。の。事。の。孫麻子。孫
一。大。長。成。佛。全。救。の。花。の。春。
夏。海。を。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫

と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫

と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫
と。の。ま。ら。の。事。の。孫麻子。孫

か



しんごのなま

くろくはくくえい

くろくはくくえい

くろくはくくえい

くろくはくくえい

くろくはくくえい

くろくはくくえい

くろくはくくえい

くろくはくくえい

くろくはくくえい

いのちふたのまをへへの徳

志や仲のまをへへの徳

よ給の吸物めく香をへへの徳

きよよあめりち

うらやま

きりぎり

あめりち

口筆
御書と部

書のうらま

子成若小書月

不心家晴也

正徳五丁未歲

